

令和5年度 園評価書

園番号

15 園名 静岡市立大谷こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A :よくできている B :概ねできている, C :あまりできていない, D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (具体的な取組目標等)
自分が好き・みんなが好き	きづいてみよう！やってみよう！	【意欲を持つ子】知・意欲 繰り返し遊ぶ中で、工夫したり自分らしく表現する	興味のある遊びを繰り返し遊ぶ事が出来るような時間と場所の確保をしたり自然物や身近な素材を用意し子どもと一緒に遊ぶ中で、自分を表現する姿を認めた。遊びの楽しさを感じていながらも工夫する姿にはつながらなかった	B	B	・子どもの思いをくみ取り、子どもがやりたいことができるよう仕掛けをしている。経験値を積んでいくことで遊びや学びが広がっていく。繰り返し遊んでいく中で、子どもなりの工夫が出てくる。安心して遊べる環境が整っている	繰り返し遊ぶことができる環境を整えながら、翌日への遊びのつながりを子どもと一緒に振り返り、翌日への期待が続くようにする。又、子どもの様子に合わせて環境を変えていき、工夫する姿を引き出していく
		【自分の思いを伝える子】徳・心情 ・友達と伝え合い、相手の気持ちに気づく	思いを受け止める事で、保育者に安心して思いを伝えるようになった。相手の気持ちに気付く事や友達に思いを伝えることが難しい子には、保育者が互いの思いを聞き、伝え合いができるように、足りない言葉を補ったり気持ちを代弁した	B	B	・この園で育った子は3年間の土台があるので、これから大変なことがあっても大丈夫だろうと思える	相手の思いの代弁をし、相手の表情に目を向けられるような言葉かけを行い、友達や身の回りの人の思いに気づけるように関わっていく
		【自分から動く子】体・態度 ・やりたいことを自分で決め、前向きに挑戦する	自分で選択できる環境を用意したり、子どもがやりたいと思ったタイミングで声をかけるようにしていった。また、子どもたちと一緒に環境をつくり、保育者が肯定的に受け止めることで、やりたいことを自分で決めるようになった	A	A		肯定的な受けとめと、選択できる環境を整えることを継続して行い、子どもの「やってみよう」という思いが続くようにしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、保育者が願いをもって発達に合った環境を用意し成長を支えていく	公開保育の事後研修、月案検討時に幼児期の終わりまでに育って欲しい姿(10の姿)が現れている場面を捉え、子どもの育ちを確認した。保育者が育ってほしい姿を意識して環境を整えたが、学年単位になりがかった	B	B	・10の姿を1年間の計画の中で活動の中に当初から組み込んでいくと、子どもたちが目標を達成できたかどうか評価しやすい。 ・保護者面談の時に10の姿を出して育ちを確認するのよいと思う	保育者の願いを持った環境作りができるように、10の姿を念頭に置いて週案作成時意識して記入していくと共に、担任間で共有して行うよう日誌の書式を検討したり、他学年の環境についても共有していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもの心に届く優しい声掛けや眼差しで見守り、安心して思いが出せるようにしていく	子どもの姿や思いを肯定的に受け止めたり、一人一人に合わせた関わりをしていく事で、安心して思いが出せるようになった。また、必要な情報を職員間で共有し全職員で対応できるようにした	A	A	・小学校でも、子どもの思いを受け止める、思いを言語化していくことをしている。「いやだったね」等言葉にして表現することで、子どもが思ったことをはっきりと意識していくようになる	引き続き、打ち合わせに参加しない職員にも伝わるよう確実に丁寧に伝達を行っていく。また、個別対応が必要な場面では、職員間で連携を取ってサポートしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもをよく見て、聞いて、感じて子どもを知り、やってみようと思える環境を作っていく	子ども達の声を大切に受け止め、どのような遊びの場にするのか問いかけ一緒に環境を作っていた。またより楽しくなるような教材の提供や場所の保証をした。しかし、担任が朝不在時は環境を整える意識が弱い時もあった	B	B	・環境づくりは難しく、やりすぎてしまうのもよくない。今あるものでやっていくしかない ・行事で派手さを求める方にはわかりにくいかもしれないが、この園を選んでいる保護者へのびのびと体も心たくましく育ってほしいと願っている方が多いので、行事のための保育ではない良さが伝わっている	前日の遊びの振り返りから、翌日の環境を子どもと準備しておくいたり、朝の遊び出しの環境をどの職員でも行えるようにして遊びのつながりを意識していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	いろいろな状況を想定した避難訓練で「自分の命は自分で守る」の意識を持つ	様々な状況を想定した訓練を行い、自分の命は自分で守るという事を声に出し子ども自身が意識できるようにした。また、散歩などで駿河台公園に行き経路を知るようにしたが天候の関係で駿河台公園への引き渡し訓練は実施できなかった	B	B	・駿河台公園での引き渡し訓練は3年間で1度も行っていない。(コロナや悪天候により)子どもを守ること自分たちに何ができるのか、保護者会の子どもも園と一緒に出来ることを考えていきたい	引き渡し訓練の日程を見直しをして、暑くなく、雨の少ない月に予定をしていく。また、ヘルメットのひもが固いので、繰り返し被る練習を行っていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、うがいを自分から進んで行えるよう視覚でも伝えていく	手洗い教室で汚れが視覚的に見えるようにした事で、手洗いの意識が高まった。しかし、実施時期が冬だった為、定着には至らなかった	B	B	・避難地が駿河台公園になっている。駿河台の自治会の方に備蓄を防災倉庫におかせてもらうように園のほうから依頼している。狭いようなら駿河台北公園の倉庫はどうか。来年度の役員に引き継いでいく ・避難訓練が上手にできたかどうかではない。子どもの命を守る職員が柔軟な対応ができ、一人一人が判断できるようにならないと命は守れない	来年度は手洗い教室の開催時期を、もう少し前にするなどして、定着していけるようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員の共通理解のもと、ひとりひとりに合った声掛けや、視覚支援などきめ細やかなかわりをしていく	年3回個別支援計画の作成と保護者面談を行う事で支援方法について一緒に考えていった。また、特別支援担当者の話し合いの中で子どもの姿や行事への参加など話し合いを行い、無理なく参加できる方法や援助方法を探った	B	B	・日々の掲示板、お便り、表現遊びの後のパワーポイント等、日々職員が伝える努力をしている。アンケートを見ても、保護者に伝わっている	支援担当者会議の話を担任だけではなく、フリー職員にも伝達を行い、園全体で情報共有できるようにしたい。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園全体を見て声を掛け合い、情報共有を行う。先を見て計画的に園運営を行っていく	朝の打ち合わせ、会議などで確認事項を共有して行ったり、行事前には、リストを作り複数で確認し確実に行うようにした。しかし、分掌の担当だけでは後手になることもあった	B	B	・年少の時から経験の積み重ねで、3年を通していくと子どもがたくましくなった。こども園で遊びの中で身についたことが生きる力になっている	行事について、スケジュールや内容を先を見て共有していく。また、分掌担任任せにせず、全職員が意識をしていき声を掛け合うようにしていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	振り返りシートや付箋を使ってどの職員も意見を出し合う。研修を2部制にし、全職員が語り合える場とする	公開保育の事前研修では、ドキュメンテーションを活用し、視覚的にわかりやすいプレゼンテーションを行った。また、付箋を活用することで、意見が出しやすく、意見の集約がしやすい話し合いの場となった	A	A	・日々の掲示板、お便り、表現遊びの後のパワーポイント等、日々職員が伝える努力をしている。アンケートを見ても、保護者に伝わっている	できるだけ多くの職員が参加できる時間に研修を行ったり、参加できなかった職員には後日報告をして意見をもらうようにする。共有の後の保育に十分話しあう事が出来るよう話し合い後も声をかけ合い確認していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが心が動いた時を捉え、次もやってみようと思える環境づくりをする	遊びの振り返りや子どもの達の興味関心を見てやってみようと思える環境を整えた。運動会や表現遊びの会では、子どもの姿に合わせて子どもが認められる場面を作り、次もやってみようという意欲につなげていった	A	A	・地域との交流を保護者に伝えるのが難しいが、一度その場を見に来ることや子どもの様子を移した映像を見せるなどして理解してもらおう伝えていく必要がある ・お互い助け合う、共助の気持ちで地域とこども園とかがわっていききたい	振り返りの中で、子ども達と一緒に必要な素材や教材を準備したり、イメージを共有して環境を作っていく。今後も子ども主体の中にも、保育者の願いを持ち経験させたいことを明確にしている
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ドキュメンテーション等の写真と、お知らせボードやお便り等で育ちの姿を具体的に記載し、園の教育、保育の様子を伝えていく	運動会では取組みの経過を知らせるドキュメンテーション、参加会や表現遊びの会ではパワーポイントを活用し、子どもの様子や育っている姿、遊びの経過を保護者に伝えた	A	A		今後も、視覚的に分かりやすい発信を続けていく。又来年度以降はタブレット端末も使用しながらより分かりやすい方法を模索していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	小学校教育への円滑な接続に向け、年長児が小学校へ訪問する計画や公開保育に招待したり公開授業に参加したりして交流を行う	大谷小学校の公開授業に行ったり、園の公開保育に小学校の教諭が参観したりして交流を図った。また、園児が小学校見学をし、交流を図っていく	B	B		園児の交流を1回だけではなく、来年度は複数回に増やし更に連携を図っていききたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	コロナ前と同様に地域とのつながりを行い、地域の中で愛される園作りを行う	敬老会や地域の子育て支援事業に参加。園だよりを地域の回覧板で配布する等し園活動を発信した。又年間計画通りおしゃべりサロン開催し地域の未就園児の子育て支援を行った	A	A		地域行事については、来年度の計画的に組み込んでいき、地域の中で愛される園作りを継続していく